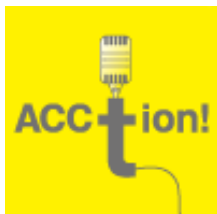


ACCtion!

Vol.120



## 海外奮闘記



### インドは資本主義国家？

アサツー・ディケイ  
インド事務所 所長  
荒木 英仁



最近話題のBRICSの中でも最も注目される人口11億の巨大市場インド。

牛、ターバン、カレー、混沌等が皆さんの抱くインド像だと思うが、今や片側4車線の高速が開通し、高層ビル、高層マンションの建設ラッシュ、大型ショッピングモールの乱立等、高度経済成長、市場活性化に牽引され、インドの市場は正にバブル絶頂を迎えている。

ただし、日本と大きく違うのは国がやたら大きいので、このバブルも今後10年間は続くと言われる奥の深さである。GDPもここ数年9%内外で堅調に推移し、70兆円を超え、国民購買力も日本に次ぎ世界第4位である。

中産階級の拡大も著しく、中間富裕層は2000万世帯を超す勢いである。こんなホットな巨大消費者市場を、日本の企業が放っておくはずもなく、ここ数年(私が赴任して早2年が経つが)の間に、インドを本社直轄の戦略市場に認定した企業は数多い。現在インドに進出している日系企業が約280社。そんな中、ADKは(孤軍奮闘ではあるけど)、強力なローカルパートナーのJWTインド(インド最大の広告代理店)と協力し、日夜日系ビジネスを狙って行脚をしているところである。

しかし、この巨大市場でインド人相手にビジネスを続けるのは容易なことではない。まずコモンセンスが著しく違う。例えば、買物をするためにお店に入って言われる最初の言葉は“WHAT DO YOU WANT?”なのである。海外でショッピングしていたら、普通は“MAY I HELP YOU?”とかであろう。インドの店員も多分“お探しの物は何でしょうか?”という意味で言っているのであろうが、“何がほしいのだ?俺は忙しいのだ。”と言われていたような気がしてならない。間違い電話が掛かってきて、相手の第一声は“WHO ARE YOU?”である。

乗用車、バス、トラック、バイク、オート3輪、トラクター、自転車、馬車ならぬラクダ車、そして神の使い牛等(たまにやぎ、野豚もいる)が無秩序に走る片側2車線の幹線道路。渋滞が始まると、突然6車線に変わるのである。さらに渋滞が続くと、勝手なインド人ドライバー達は、反対車線を走り出し、それもどンドン2重3重になり、しまいにはまったく動かなくなる。そこにようやく出てきた警官は逆走を取り締まるでもなく、逆車線を走る車の交通整理を始め、徐々に渋滞が緩和される。



約束という言葉も意味を持たない。何を約束しても、皆出前の蕎麦屋状態である。どう考えても1時間以上遅れる場合でも“No problem, be there in three minutes”なのである。これが3時間、4時間だったりするから驚きである。大きな約束ほど、この誤差単位が巨大化する。1日が1週間に、1カ月が3カ月にという具合だ。

インドは資本主義国家である。だからというわけではないのだろうが、要するに、皆自分のことしか考えてない。超利己主義、言った者勝ち、やった者勝ちなのだ。会議をしても、皆自己主張が強過ぎて、まったく結論が出せない。ここの人達にとって、“コンセンサス”なんて概念はないのだろうなと思う。

例を挙げたらきりがないので、最後に、こんな大変な国でがんばってきた先輩日本人駐在員から学んだ、インドビジネスを遂行する上で欠かすことのできない“FIVE NEVERS (5つのア)”を伝授しよう。それは、1.Never Hurry (慌てない) 2.Never be Inpatient (焦らない) 3.Never Give Up (諦めない) 4.Never Depend On (あてにしない)、そして、5.Never Underestimate (侮らない) ことである。

---

[Acction!120表紙へ](#) || [▲戻る](#) ||